
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成 17 年 5 月 10 日

鹿児島湾 No. 3

[1] 5月9日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

湾奥部新島～牛根沖～福山沖において夜光虫（ノクチルカ シンチランス）による帯状の着色がごく一部確認されました。

また、湾奥部一帯では変色域が確認されました。この変色域は珪藻類（レプトシリンドラス ダニカス）数千細胞/ml（表層）によるものです。

全体的に前回調査時（4/26）に比べセラチウム フスス及び珪藻類の増加が顕著でした。

また、湾奥部竜ヶ水沖、重富沖、福山沖、牛根沖でシャトネラ グロボーサが1細胞/ml確認されました。

なお、ヘテロシグマ アカシオ、シャトネラ マリーナなどの有害プランクトンは確認されませんでした。

(2) 海況

表層水温は湾奥部で20.2～21.2、湾中央部で19.9～20.2と湾中央部で同年同時期並となっています。

また、塩分については30.5～33.7で湾奥部については降雨の影響で同年同時期よりやや低めとなっています。

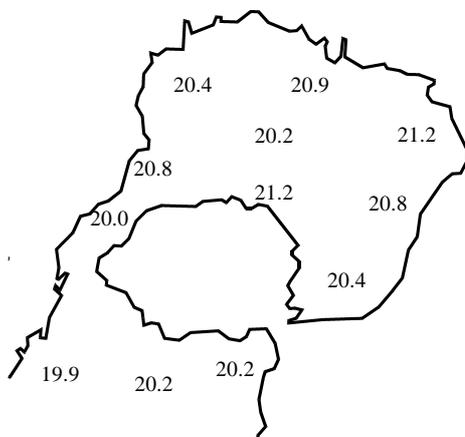
透明度については、3.2～10.5mと湾中央部については同年より高めですが、湾奥部については珪藻類の影響でやや低めとなっています。

水温：平均	20.5	湾奥部	20.7	湾中央部	20.1
塩分：平均	31.9	湾奥部	31.3	湾中央部	33.6
透明度：平均	5.5m	湾奥部	4.0m	湾中央部	9.8m

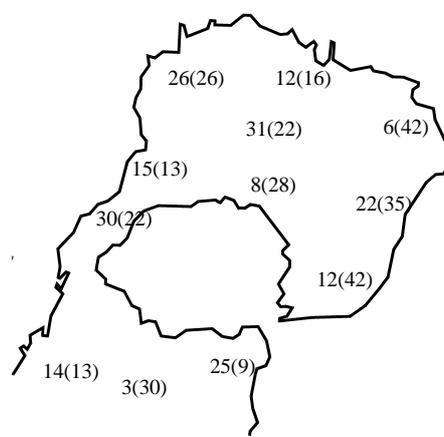
[2] 今後の赤潮発生の予想

依然としてセラチウム属（優占種はセラチウム フスス）が、全体的に確認され、前回調査時に比べ数が増加しています。現在のところ直ちに問題となる数ではありませんが、前回の赤潮情報で記載のとおり、おおよそ 100 cells/ml を超えるあたりから極端な餌食いの低下がみられます。急激に大規模な赤潮を形成する可能性は低いですが、風や潮流等により急激に集積することもありますので、当面は給餌の際、海水の色や養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要です。

一方、シャトネラ マリーナは、細胞が確認されていないことからしばらくは本種による赤潮の発生はないと思われます。



表層水温 ()



セラチウム フスス表層細胞数
 [cells/ml, ()内は10m層]

赤潮情報：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>